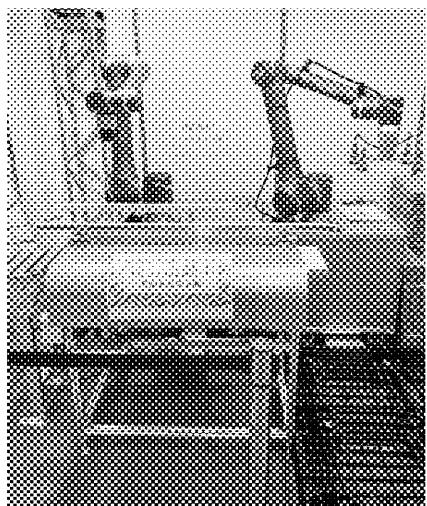


# ボーラー箱開口段ボール



ロボは可搬重量20kg  
のオムロン製協働ロ  
ボを2台使用した。輸  
入口ボと違つてサービ  
ル箱に入つたプラスチ

ス対応が早い利点があ  
る。

小麦粉の入つた袋など  
が次々入荷する。パレ  
ットに置かれた段ボーラ  
ー箱をデパレタイザー

装置でコンベヤーに載  
せ、ロボハンドに装着  
した金属板でテープを  
切断する。金属板のた  
め、「紙粉が出にくく  
食品工場が嫌う異物混  
入防止に効果がある」

試作した段ボール箱開  
口ボシステム。来年開  
始商品化を目指す

## 2ハンドでテープ切断

アルトリリスト（東京都調布市、橋田浩一社長）は、食品工場向けに段ボール箱開口ボットシステムを試作した。パレットに置かれた段ボール箱をコンベヤー上に2個ずつ押し出し、左右に並んだロボがハンドに装着した金属板で中心線に貼られたクラフトテープを切り、中身を出せるようにする。作業速度は毎分1箱で、消費税抜き価格は2000万円程度。今後、ロボ台数を増やして作業速度を倍増させ、2024年の商品化を目指す。

## アルトリリスト、食品工場用

（橋田社長）という。  
残業時間が制限され  
る2024年問題を前に、食品工場や物流現  
場は人手不足問題が深  
刻化している。産業用  
ロボはスピードは出せ  
るが、事故防止のため  
安全柵が必要で費用面  
や設置場所がネックと  
なり、食品工場での導  
入は難しかった。

最近は産業ロボメー  
カーも協働ロボ開発に  
力を入れており、「使  
えるロボが増えてきた  
ことが当社の製品開発  
を後押しした」（同）。  
「という。今後、ロボ台  
数を3台に増やすとど  
もに、可搬重量もさら  
に大きな機種の採用を  
検討している。これに  
より実質価格を千数百  
万円に引き下げ、拡販  
を図る。